

なり、その後統計事務の機械化計画が促進され、大正15年鉄道省経理局調査課（現在の国鉄経理局審査統計課）に多数統計機が配置され、機械統計の体制整備により、新しく主要貨物統計として昭和2・1から主要貨物77品目を調査することとなった。以来調査品目および統計内容も時代の変遷とともに幾多の変化を伴いながら現在に至っている。

この統計は運輸統計の1つで、貨物統計と関連を有するものである。この統計の特色は主として国鉄線を輸送する車扱貨物のうち、主要貨物を対象とした品目別輸送トン数・トンキロおよび運賃等の実績を毎月調査し、その運輸成績を算定するほか、その他の車扱貨物および一般貨物の輸送実績を調査して各種の統計を作成する。この統計は国鉄経営の基本資料、たとえば貨物輸送計画・貨物等級および運賃改正・施設の改良計画・新線建設計画および収入予算の編成等に利用されるとともに、また一面には国内における産業分布および物資交流状況を把握することにより、国土開発計画や国内の産業・経済に関する諸種の計画策定資料として、広く一般に利用することができる。

この統計は国鉄線および連絡社線発送で、国鉄線を輸送した車扱貨物のうち、調査品目として定めた主要貨物について計算する。ただし購買貨物・駐留軍貨物・小口混載貨物・事業用貨物（石炭・砂利を除いたもの）・構内運送貨物および無賃扱貨物については主要貨物から除外して、べつに特種貨物として計算している。現行の主要貨物調査品目はつぎの66品である。

鉱産品 石炭・コークス・石および石材・砂利および砂・鉄鉱・硫化鉄・石灰石・銑鉄・鋼材
林産品 原木・坑木・製材・薪・木炭
農産品 米・麦・大豆・甘しょ・馬鈴しょ・野菜・林檎・柑橘・その他果物・葉煙草・飼料
畜産品 馬・牛・豚
水産品 鮮魚・冷凍魚・塩乾魚・塩
化学工業品 硫酸アンモニア・過磷酸石灰・その他肥料・ソーダ・硫酸・鉱油・油脂・陶磁器・れんがおよび瓦・ガラスおよびその製品・石灰・セメント
機械工業品 機械
食料工業品 小麦粉・砂糖・煙草・酒・味噌・醬油
繊維工業品 繭・綿花・生糸・絹・化学繊維糸・綿糸・絹・化学繊維織物・綿織物・パルプ・紙・新聞用紙
雑工業品 わら工品
事業用品 事業用石炭（有賃・無賃別）。事業用砂利（有賃・無賃別）

この統計を作成するためにもっとも重要であり基本的な素材は、駅において作成する車扱貨物通知書である。貨物通知書には発駅・着駅・経由・品名・トン数・運賃・その他必要事項が記載され、これらはこの統計作成上のもっとも必要な事項である。貨物通知書は鉄道管理局経理部統計課（または審査統計課）に集められ、ここで毎月統計に必要な基本素材が作成される。

1 主要貨物品目別調査

統計を製作する鉄道管理局統計課は貨物通知書を整理区分し、必要な事項を主要貨物トン数および運賃調査表に抜すいし、さらにべつに定めた符号表により符号を付した上、月報として毎月所定の期日までに本社経理局審査統計課に送付する。本社では統計機械によってこれを集計製表して主要貨物統計を作成する。機械作業によるため符号化が必要であり、鉄道貨物取扱駅名符号表（都道府県・局・線・駅名の符号）および主要貨物調査品目符号表がべつに定めてある。

局において作成する主要貨物トン数および運賃調査表には、

発駅（府県・局・線・駅）・社線通過・駅間キロ程・着駅（府県・局・線・駅）・品目 トン数・運賃を抜すいして符号を記入する。局は調査表作成と同時にその他貨物についても発駅・着駅・トン数・運賃を別カードに抜すいし、総貨物トン数・トンキロ・運賃の計算資料をも作成する。

本社審査統計課は、毎月社線取扱の後扱扱の事業用貨物で、主要貨物に該当するものを貨物通知書（社線から直接本社に送付）から抜すいして、社線発後扱扱主要貨物トン数および運賃調査表を作成し、局から送付された調査表とともに統計機によって下記の原表を作成する。

- (1) 局別品目別速報原表
- (2) 品目本位発駅別明細原表
- (3) 品目本位運輸成績キロ別原表
- (4) 品目本位局別明細原表
- (5) 品目本位着駅別明細原表
- (6) 品目本位府県別明細原表

つぎに原表を計算して所定の主要貨物統計月報（年報）を作成するのであるが、原表と月報の関係および月報の内容はつぎのとおりである。

(1)は鉄道管理局別の品目別発送トン数を計上したもので、局別および全局分の主要貨物発送トン数を早期に知ることができる。

(2)、(3)により主要貨物運輸成績を作る。これは全局の主要貨物輸送実績であって、品目別の発送トン数・トンキロおよび運賃を計上し、1t平均輸送キロ、1t平均運賃および1t1km平均運賃を算定したものである。(2)の原表により品目別・局別発送トン数および運賃を計算して全局分を算定し、(3)の原表により品目別に1kmごとのトンキロを計算し品目別トンキロを算定する。

(2)と(5)により品目別駅別発着トン数月報および主要貨物局別発着トン数および運賃月報をつくる。前者は発送および到着トン数を駅別に計上し、後者は局別の発送トン数および運賃と到着トン数を計上する。

(2)により主要貨物駅別発着関係明細表を作る。発駅本位に関係着駅別のトン数を品目別に計上したもので、年報として作成する。これは年間の発送取扱量と着駅別輸送トン数を品目別に示したもので、物資の流動状況を詳細に知ることができる。

(3)により主要貨物キロ別輸送トン数月報を作る。キロ区画別に輸送した品目別トン数を計上したものである。キロ区画は100kmまでは10km刻み、100km以上は100km刻みをもって示し、主要貨物の輸送密度を表わす。

(4)により主要貨物発着関係局別トン数月報を作る。品目別に発局別の関係着局別にトン数を計上したもので、局相互間の主要貨物輸送量を知るとともに、地帯別流動状況をも知ることができる。

(5)により主要貨物発着関係府県別トン数月報を作る。品目別に府県別の関係着府県別にトン数を計上する。

(6)により主要貨物特定区間輸送トン数月報を作る。品目別・区間別（青函航路・宇高航路・関門隧道）・上り下り別の輸送トン数を計上する。

主要貨物運輸成績月報（年報）にはつぎのものが掲上されている。

主要貨物運輸成績・主要貨物局別発着トン数および運賃月報、主要貨物キロ別輸送トン数月報、特定区間輸送トン数月報および特種貨物トン数および運賃表

2 主要貨物等級別調査